

森づくり最前線

利根沼田森林管理署 鎌田森林事務所 地域技術官 生田目 幸喜

鎌田森林事務所がある片品村は、「♪夏が来れば思い出す はらかな尾瀬 遠い空♪」の歌で誰もが知っている尾瀬ヶ原への群馬県側からの入り口です。



尾瀬ヶ原木道から望む^{しづつさん}至仏山

片品村と沼田市利根町の一部の約9,500haを管理し、豊富な雪に恵まれ、国有林内には4つのスキー場が営業しています。

また、かつてスキー場だったところにはメガソーラー太陽光発電所が設置され、それらの境界や貸付地管理も重要な業務の一つです。

最近では、新型コロナウイルス感染症が5類相当にされたことから、尾瀬への入山者や金精峠を越える観光バスや観光客が増加し、観光の村は賑わいを取り戻しています。

さて、当森林事務所では、近年の分収造林地の伐採により造林事業が増加しています。一方で、有害鳥獣であるシカが増えており、初期保育期間中のシカ被害対策が重要な課題となっています。これまでは忌避剤の散布を春と秋に実行し、それなりの効果は確認できています。しかし今では植付から忌避剤散布までの短時間に食害が発生することも珍しくありません。そこで、今年度は試験的にシカ柵の設置に取り組み、積雪地域においての有効性を検証しようとしています。雪の圧力にどれだけ耐えられるのか、仮に雪で柵が損傷した場合どのように修繕を行うか、それは職員で対応できるのかなど、課題は多いと思います。

また、森林環境譲与税が本格実施となることから、森林管理署が地域林業に対してお手伝いできることはないか、地元役場の担当者や森林組合と話し合いを進めようとしています。これまでのところ、施業対象となる森林の集約化について、地元山林所有者の方々の理解を得ることの困難さが浮き彫りになってきており、取組が思うように進んでいないことが伺えます。少しでも国有林側からの協力ができるよう引き続き取り組んでいく考えです。



貸付地（ソーラーパネル敷）の現地確認



シカ柵を点検する筆者